



## 飯豊の印象

今西錦司

飯豊はじつに馬鹿でつかい山であった。しかし、それは地図から十分に予想されるところであり、予想どおりの印象であった、とうにすぎない。ここではもう少しきめの細かい印象を、とりあげることにしよう。

飯豊は東北の山であるから、山の下半身はさぞかしブナの深い森林で、すっぽりと包まれているだろうという予想は、ある程度裏切られたといつてもよい。もちろんブナは至るところでお眼にかかるたし、又深々とした森林もどこかに存在するにはちがいないのが、飯豊の中心部に焦点を合わせてかぎり、ブナ林の発達はけつして良好とはいがたい。その理由を考えてみるのに、まず第一にあげたいのは、山が急峻すぎるということである。急峻というのは、どの主谷も深く山に食い入っているので、主谷の両側の斜面が直立し、この斜面を刻む枝谷も急なら枝谷と枝谷の間にある枝尾根もまた急である、というわけで、これではブナ林の発達を促すようなひろい、緩やかな斜面というものが、どこにも見あたらない、ということである。

制的されているのである。  
しかし、禍転じて福となるといふか、あるいは短所も見方によつては長所となるというか、この飯豊中心部におけるブナ林の発達のわるさが、かえつて山を明くるしむる登山者を山に直接結びつける作用をはたしているともいえるのである。そして、この点に關しては、山地帯のブナ林もさることながら、亞高山帶に相当する地帯に、針葉樹林の欠除しているところの方が、いつそう飯豊という山を明るくしているといわねばならないであろう。

亞高山帶に針葉樹林を欠除しているのはなにも飯豊ばかりではなくて、その北に位置した朝日連峰もそうであり、朝日の北にあつては、鳥海もまたその仲間にはいるのである。ではどうして、これら山々にかぎつて、針葉樹林を欠除しているのだろうか。植物生態学者はかなり前から、この問題については注意していたのであるが、まだに万人を納得させることができないような解答が見つかっていない。

今までのところでは、京大の四手井綱英教授の積雪説がもつとも有力な仮説として認められていて、けれども、学界のつねとして、必ずしも異論がないわけではない。

山岳では、針葉樹が生育に必要とする無雪期間を、上廻る残雪期間が存在するため、針葉樹が育たないのであるということであるらしい。

私が飯豊に登るために六月上旬をえらんだのは、長年の経験からこの季節は空が多少は震んでいても、天気がかたいということの他に、残雪がまだ豊富だから残雪を踏んで歩けば行程がかかるということ、お花火を見るにはこの季節が一番よいということ、夏になると登山する人がふえて、山小屋が難踏することなどを考慮に入れていたことはもちろんだが、そのほかに、上記の四手井説とからんでこの季節における雪の融け方について、観察してみたいという願望をも、もっていたのである。

そういった観点から眺めたところ、飯豊はたしかにその評判にそむかないだけの、豊富な残雪を蓄えていることを、認めるにやぶさかではなかつたのであるが、それにもとてこの季節に山の七八合目以上が、まだすっかり雪で包まれているというのではなくて雪はまだ風下側の吹きだまりなどにはおびただしく残っていたにもかかわらず、稜線の大半ではすでに雪が消えて、笹や灌木や地肌が露出していいたのである。

表面積からいえば正確でないにしても、五〇%程度も雪のとけた部分がある、という点をとらいたならば、この点だけでは、かりに冬降る雪の量が飯豊よりもすくないだろうとも、この季節における越中立山や加賀の白山にくらべて、飯豊のみが残雪が富豊であるとは必ずしもいえないのではないかと、いう印象を受けたからである。

私は四手井説が、原理的に間違っているといつているのではなく、必要な無雪期間の与えられた立山などころ、いいかえるならば、とけるにしても、あまりおそくまで残雪ののこるようなところには、針葉樹が育たないということを否定しているわけではない。しかし、これを裏がえしにしていながら、残雪がある程度早くとけてしまうところであったなら、残雪がおそらくまでのこるところとちがつて、そこには針葉樹が育つてもよい、ということでなければなりません。そして、現に、立山においても白山においても、オオシラビソ（アオモリトドマツ）がべた一面に森林を形成しているようないところは少ないにしても、こういった条件にめぐまれたところには点々としてオオシラビソの集団が成立していることを、私は見てきたのである。

が生育しないのかということの説明はできないであろう。われわれはここにおいて、なにか四手井説にかわるような、別な仮説を持ちださねばならないのである。ここで一つ気になることは、現在あればけ豊富な残雪を誇っている飯豊に、氷河地形とくに閻谷（カール）が一つも存在していないということである。この点では飯豊だけでなく、朝日も鳥海も同じであるが、これらの山々は私の素人考えによると、氷期にはまだ現在ほどの高さには達していなかつたであろう。いかえるならばこれらの山々は比較的新しい山なのであらうか。

ということは、藏王や吾妻から針葉樹、特にオオシラビンの種子が、ここまで運ばれてくるのは、チャンスの問題であるから、そのためにはまだこれらの山山ができるから十分な時間を経過していない、ということなのである。もちろん飯豊に針葉樹林がないため山が明るくてよいということとなぜ飯豊に針葉樹がないのか、ということとは、一度切りはなして考えねばならない問題であるが、もし、私がここに提唱したような仮説の点偏を確めてみたいという殊勝な方があるならば、その実験にはそれほど手間を要しないであ

とんどがこうした主尾根についているのであるが、こうした主尾根もまた両側の急斜面に支えられた狭い尾根である場合が多く、ここでもまたブナ林の発達は地形的に制的されているのである。

しかし、禍転じて福となるといふか、あるいは短所も見方によつては長所となるというか、この飯豊中心部におけるブナ林の発達のわるさが、かえつて山を明くるし登山者を山に直接結びつける作用をはたしているともいえるのである。そして、この点に關しては、山地帯のブナ林もさることながら、亞高山帯に相当する地帯に、針葉樹林の欠除しているところの方が、いつそう飯豊という山を明くるとしているといわねばならないであろう。

亞高山帯に針葉樹林を欠除しているのはなにも飯豊ばかりではなくて、その北に位置した朝日連峰もそうであり、朝日の北にあっては、鳥海もまたその仲間にはいるのである。ではどうして、これらの山々にかぎつて、針葉樹林を欠除しているのだろうか。植物生態学者はかなり前から、この問題については注意していたのであるが、いまだに万人を納得させることができないような解答が見つかっていない。

今までのところでは、京大の四手井綱英教授の積雪説がもっとも有力な仮説として認められていいけれども、学界のつねとして、必ずしも異論がなはわざでない。

い。私もまだ十分吟味していないので、ここで四手井説を詳しくのべることをさけておくが、この説は誇じつめたところ、全国でもっとも積雪量の富豊なこの地帯のが存在するため、針葉樹が育たないのであるということであるらしい。

私が飯豊に登るため六月上旬をえらんだのは、長年の経験からこの時季は空が多少は震んでいても、天気がかたいということの他に、残雪がまだ豊富だから残雪を踏んで歩けば行程がはかかるということ、お花畑を見るにはこの季節が一番よいということ、夏になると登山する人がふえて、山小屋が難踏することなどを考慮に入れていたことはもちろんだが、そのほかに、上記の四手井説とからでこの季節における雪の融け方にについて、観察してみたいという願望をも、もっていたのである。

そういった観点から眺めたところ、飯豊はたしかにその評判にそむかないだけの、豊富な残雪を蓄えていることを、認めるにやぶさかではなかつたのであるが、それでもこの季節に山の七八合にして、もともとこの季節に山の七八合において残雪を抱く雪量が、まだ風下側の吹きだまりなどにはおびただしく残っていたにもかかわらず、稜線の大部 分ではすでに雪が消えて、笹や灌木や地肌が露出していただのである。

私は、このことを四手井説とか  
らんで、重視したいのである。な  
ぜならば、飯豊に冬降る雪がいか  
に多かるうとも、六月上旬のこの  
季節に、ところどころ、山全体の  
表面積からいえば正確でないにし  
ても、五〇%程度も雪のとけた部  
分がある、という点をとらいたな  
らば、この点だけでは、かりに冬  
降る雪の量が飯豊よりもすくなか  
ろうとも、この季節における越中  
の立山や加賀の白山にくらべて、  
飯豊のみが残雪が富豊であると  
必ずしもいえないのではないかと  
いう印象を受けたからである。

だから、積雪量乃至は残雪量の豊富さといったことだけからではなぜ飯豊において六月上旬にすでに無雪地になつてゐる場所に立山や白山と同じようオオシラビソが生育しないのかということの説明はできないであろう。われわれはここにおいて、なにか四手井説にかわるような、別な仮説を持ちださねばならないのである。ここで一つ気になることは、現在あらだけ豊富な残雪を誇つてゐる飯豊、氷河地形とくに閻谷（カール）が一つも存在していないということである。この点では飯豊だけでなく、朝日も鳥海も同じであるが、これらの山々は私の素人考へによると、氷期にはまだ現在ほどの高さには達していかつたであろう。いかがえるならばこれらの山々は比較的新しい山なのであらうか。

ということは、藏王や吾妻から針葉樹、特にオオシラビソの種子が、ここまで運ばれてくるのは、チャンスの問題であるから、そのためにはまだこれらの山山ができるから十分な時間を経過していない、ということなのである。もちろん飯豊に針葉樹林がないため山が明るくてよいということとなぜ飯豊に針葉樹がないのか、ということとは、一度切りはなして考えねばならない問題であるが、もし、私がここに提唱したような仮説の点偏を確めてみたいといふ殊勝な方があるならば、その実験はそれほど手間を要しないであ

四〇

八

それは、吾妻あたりから、オオシラビソの稚樹をかなり大量に、飯豊のどこか、ブナの上限あたりで雪のわりあい早くとける場所へ移植してみることである。定着するかしないかが問題で、いったん定着したら、よかれ悪かれ、あとは彼らの自然力で繁殖するのである。純粹な山登りの立場からいえば、余計なことかもしれないがこの問題は新潟県の山岳協会が協力して下さったら簡単に実験できることである。飯豊にちなんて御一考を促してみた次第である。

今西さんの本職は生物学者である。現に岐阜大学長であるし、ゲバ棒があるとすれば、吊し上げも食う側である。今西さんは生物学者としての眼をとおして「山とはなんであるか」を追求してきた。カゲロウ、イワナ、アマゴまで見て、シカ、クマの予定をウマ、サル、ゴリラとコースを変え、専門の著書がある。

われわれにとって今は今西博士や今西学長の肩書はどうでもよいことである。わが国の五〇〇座の山を登った登山者今西バンザイさん

て五〇〇座は登っている自信はあるが、かなりWつているようだ。標高を何米からするか、連峯などの頂上の数え方にもよるが、二〇〇座ぐらいはすぐ数えられようが、その先是なかなかであろう。これから老後の楽しみにひとつやつてみるか。

と、私はタイヤはバンジンは息奄々のボンエービング。国際的登山である今西さんを比較こうまで違うもんかとなる。同行した君達もこく考えて、それから頂にバンザイをやろうで一九七〇

今西錦司先生の  
お供をして

クシ、エンが記してあった。コースは新発田家で探検家としてみて、五枚沢泊も思つて、支援隊（関川山の渡辺啓介、小倉敏雄）（下越山岳会）八百樹、鈴木敏雄（豊栄山岳会外）田昇（親子）外準備万端整えた。日、今西先生、高島さんとの同者）藤島さんは、一七・二上高らかこの処をよはないか。

出一湯ノ平山莊泊  
屋泊一 大日岳  
（会） 渡辺龍吉、  
　　益子、牧野久美子  
五十嵐篤雄、杉原  
　　壁、菅靖夫、野村  
　　公） 丸山高司、山

そんな関係で、戦争中から始めた関西地方の古社寺巡礼の旅先でこの京都大学には今西さんのいることも、訪れるることも知っていた。しかし、よくあることだが土地の人の言葉を信じて、お寺やお宮を見落して、後で残念しているようなことで、つい京都で会う機会がなかった。会ったのは戦後越後の山河へ今西さんの方から訪れてきて、胎内川、飯豊山、二王子岳と一歩いたり、私もまた京

数えてみないが、越後の山だけでも大変の数である。雪と藪と、谷と岩と、花と雲と、中部山岳におどるものではない。年に比例して高度を下げて貴うなら。今西さんの満足できる山はいくらもある。

私が新潟県内の一等三角点の山二十九座を登るのを思ひたつたのは一昨年である。山仲間の協力後援を得て、五月の経塚山を最後に巡り終った。これを五〇〇座とす

り、どうやら自分と山を睨み合せての駆引きとなつたようである。今西さんの旺盛な登山欲、そして、それを押上げる若々しいリズムが美事に今西さんの身についている。こうした姿は若い連中にならぬか見られない。いつも重荷を黙つて背負う者、深雪のラッセルを黙つてふむ者、そんな人は極めて少なくなった。馬力にものを云わせるモーターボートみたいいの連中ばかりで、もう少し重々しいト

のお供をして杉原八百蔵の二王子岳に登りました。快晴の二王子岳は残念ながら山旅でした。今西先生は二王子岳飯豊連峯を眺めながら、その説明を聞いておられ、非飯豊山に登る意気入れた。

今年の五月二〇日藤六月六日に今西先生外に入り、下越で御案内

樹氏と私が雪の多い静岡の頂上から北股岳はもう一息残る。北股岳頂上では、藤島さんで全員万才三唱、来年は是岳まで遊歩、御西陽が待つてゐること、島さんから一名で飯豊へと引いだ小屋へと移る。七時をまわっていこんだ。残雪の洗濯

満平を過ぎれば  
今西先生の音頭  
菅靖夫が背負つ  
栓を抜く、登山  
もある。  
た。主稜を鳥帽子  
小屋では会津勢  
になつてゐる。  
西小屋に着くこ  
私と菅靖夫はか  
返す。時計は一

今西さんの本職は生物学者である。現に岐阜大学長であるし、ゲバ棒があるとすれば、吊し上げも食う側である。今西さんは生物学者としての眼をとおして「山とはなんであるか」を追求してきた。カゲロウ、イワナ、アマゴまでみて、シカ、クマの予定をウマ、サル、ゴリラとコースを変え、専門の著書がある。

われわれにとって今は今西博士や今西学長の肩書きはどうでもよいことである。わが国の五〇〇座の山を登った登山者今西バンザイさんに限りない魅力がある。また、わが国に優秀な登山家は多いが、よき探検家は育たないといわれているなかに、第一級の探検家としての今西さんにはばならないことが多いが。その裏付けとして学者の今西博士の顔が出てくるのでやっぱり、バンザイの今西さんであってほしい。そうであるならば、われわれも越後の山へ来ませんか、と氣軽るに誘われる。

数えてみないが、越後の山だけでも大変の数である。雪と藪と、谷と岩と、花と雲と、中部山岳におどるものではない。年に比例して高度を下げて貰うなら。今西さんの満足できる山はいくらもある。

て五〇〇座は登っている自信はあるが、かなりWつっているようだ。標高を何米からするか、連峯などの頂上の数え方にもよるが、二〇〇座ぐらいはすぐ数えられようが、その先是なかなかであろう。これから老後の楽しみにひとつやつてみるか。

初めての山のひとつひとつに、今西式ベンザイ三唱はできようが乾杯の方はどうなることか、これと、近ごろのイビキが心配になる。どうやら両者は深い関係があるらしい。

ここに思うことは、自分に合つた山登りのリズムを持つことである。重荷で長い激しい登りや藪こぎに、自分は自分なりのリズムを持っていた。そのリズムは前日の乱行、極端な悪条件の限りであっても、若い時は行動を始めて二〇分くらいですぐ出て来た。年も六〇才をすぎると、それが蘇つてこない。どう復活させるか、より新しいリズムを発見するというより、どうやら自分と山を睨み合せての駆引きとなつたようである。

今西さんの旺盛な登山欲、そして、それを押上げる若々しいリズムが美事に今西さんの身についている。こうした姿は若い連中にならなか見られない。いつも重荷を

と、私はタイヤはパンジンは氣怠々のボンエーティー。国際的の登山である今西さんを比較こうまで違うもんかとくる。同行した君達もこく考えて、それから頂にバンザイをやろうで

（会）渡辺龍吉、  
益子、牧野久美子、五十嵐篤雄、杉原  
咲、菅靖夫、野村  
（二）丸山高司、山  
朝こられた終さ  
とところで六月六  
高木さん（同行  
同行を待つて出発  
百々ローソクで  
続いた。  
が効いたのか翌  
時三〇分出発。  
は、ひと汗かく  
覆われている。  
れば飯豊のふと  
灌平を過ぎれば  
た主稜を鳥帽子  
（一）今西先生の音頭  
菅靖夫が背負つ  
栓を抜く、登山  
もある。

て五〇〇座は登つてゐる自信はあるが、かなりWつてゐるようだ。標高を何米からするか、連峯などの頂上の数え方にもよるが、二〇〇座ぐらいはすぐ数えられようが、その先はなかなかであろう。これから老後の楽しみにひとつやつてみるか。

初めての山のひとつひとつに、今西式バンザイ三唱はできようが乾杯！の方はどうなるとか、これと、近ごろのイビキが心配になると。どうやら二者は深い関係があるらしい。

ここに思うことは、自分に合つた山登りのリズムを持つことである。重荷で長い激しい登りや藪こぎに、自分は自分なりのリズムを持っていた。そのリズムは前日のご乱行、極端な悪条件の限りであつても、若い時は行動を始めて二〇分くらいですぐ出て来た。年も六〇才をすぎると、それが蘇つてこない。どう復活させるか、より新しいリズムを発見するというより、どうやら自分と山を睨み合せての駆引きとなつたようである。

今西さんの旺盛な登山欲、そして、それを押上げる若々しいリズムが美事に今西さんの身についている。こうした姿は若い連中にならぬ見られない。いつも重荷を黙つて背負う者、深雪のラッセルを黙つてふむ者、そんな人は極めて少なくなつた。馬力にものを云わせるモーターボートみたいの連中ばかりで、もう少し重々しいト

と、私はタイヤはパンジンは氣息奄々のボンエーティー。国際的登山である今西さんを比較ここまで違うもんかとなる。同行した君達もこう考えて、それから頂くにバンザイをやろうで

今西錦司先生の  
お供をして  
五十一  
島さんが新発田にこら  
岳会長佐久間さん宅  
二四日早朝、今西先生、  
のお供をして杉原八百  
二王子岳に登りました。  
快晴の二王子岳は残雪  
かな山旅でした。

今西先生は二王子岳の  
飯豊連峯を眺めながら、  
の説明を聞いておられ、  
非飯豊山に登ると意気  
れた。

今年の五月二〇日藤  
六月六日に今西先生外  
に入る、下越で御案内

クし、エン  
コツ車で考  
してみて、  
この処をよ  
上で高らか  
はないか。  
**一七・二**  
風 嘉 雄  
田昇(親子) 外一  
準備万端整えた  
日、今西先生、高  
粹治(豊栄山岳会主  
者) 藤島さんの同  
じと菅崎夫、渡辺  
先発隊として今  
んと菅崎夫、渡辺  
出発させておいた  
にこたえた。  
湯ノ平山荘で三  
の酒宴は夜半まで  
前夜の天気祭り  
七日は又快晴、五  
鳥居峯までの登り  
中峰は全部残雪で  
しかしここまでく  
ころだ。残雪の洗  
北股岳はもう一息  
残雪のなくなつた  
北股岳頂上では、  
で全員万才三唱、  
てきた缶ビールの  
の醸酎味はここに  
岳まで遊歩、御西  
が待つていること  
陽のあるうちに御  
とを念じながら、  
いらぎ小屋へと引  
七時をまわってい  
ー北股岳—御西小  
五枚沢泊  
支援隊(関川山の  
(下越山岳会) 五  
八百樹、鈴木敏雄  
渡辺啓介、小倉敏  
上で高らか  
はないか。  
**一七・二**  
風 嘉 雄  
田昇(親子) 外一  
準備万端整えた  
日、今西先生、高  
粹治(豊栄山岳会主  
者) 藤島さんの同  
じと菅崎夫、渡辺  
先発隊として今  
んと菅崎夫、渡辺  
出発させておいた  
にこたえた。  
湯ノ平山荘で三  
の酒宴は夜半まで  
前夜の天気祭り  
七日は又快晴、五  
鳥居峯までの登り  
中峰は全部残雪で  
しかしここまでく  
ころだ。残雪の洗  
北股岳はもう一息  
残雪のなくなつた  
北股岳頂上では、  
で全員万才三唱、  
てきた缶ビールの  
の醸酎味はここに  
岳まで遊歩、御西  
が待つていること  
陽のあるうちに御  
とを念じながら、  
いらぎ小屋へと引  
七時をまわってい  
が記してあつた。  
コースは新発田  
自家で探検家  
してみて、  
この処をよ  
上で高らか  
はないか。  
**一七・二**  
風 嘉 雄  
田昇(親子) 外一  
準備万端整えた  
日、今西先生、高  
粹治(豊栄山岳会主  
者) 藤島さんの同  
じと菅崎夫、渡辺  
先発隊として今  
んと菅崎夫、渡辺  
出発させておいた  
にこたえた。  
湯ノ平山荘で三  
の酒宴は夜半まで  
前夜の天気祭り  
七日は又快晴、五  
鳥居峯までの登り  
中峰は全部残雪で  
しかしここまでく  
ころだ。残雪の洗  
北股岳はもう一息  
残雪のなくなつた  
北股岳頂上では、  
で全員万才三唱、  
てきた缶ビールの  
の醸酎味はここに  
岳まで遊歩、御西  
が待つていること  
陽のあるうちに御  
とを念じながら、  
いらぎ小屋へと引  
七時をまわってい

(会) 渡辺龍吉、屋泊、大日岳、忍子、牧野久美子、五十嵐篤雄、杉原咲、菅靖夫、野村千尋、丸山高司、山高木さん(同行)、高木さん(同行)、行を待って出発した。朝からよいもののが効いたのか翌時三〇分出発。荒川の渡渉は流石は、ひと汗かく覆われている。れば飯風のふと灌平を過ぎれば百々ローソクで、百々ローソクで、<sup>（心）</sup>菅靖夫が背負つ栓を抜く、登山もある。た主稜を鳥帽子小屋では会津勢になつていて、西小屋に着くと私と菅靖夫はか返す。時計は一  
た。

飯豊に針葉樹林は  
なぜないか

藤島玄

て問題にならぬほど貧弱なのは何が原因であろう。

この北陸、奥羽気象区の裏日本  
の高山に北地的針葉樹がどうして  
侵入し得なかつたか。それを追求  
すれば、結局は特殊の気象に帰す  
るようだが、山岳気象観測所や森  
林実験場がないので、科学的に掘  
り下げた研究を聞いていない。し  
かし、それについて各論説はあ  
る。

① 海からの季節風を強く受ける  
山岳は、成林限界線が著しく低  
下しているという海風説。飯

を保護する表土の発達が困難だから樹根の生育の余地がない。ことに季節風と積雪量の両面から雪底、雪崩等の雪蝕作用が激しく繰り返されるので、喬木の生存を許さないという地形説。

⑤ 飯豊、朝日のような地塊山脈や新しい火山は、地味の関係上、針葉樹の生育に不適当だが、古い時代の火山性の土壤地味が針葉樹の生育に向くのではないかとう土壤の新旧説。

⑥ 昔は針葉樹林があつたのだが何かの原因でそれがなくなつた

積雪さえ少なければ、北地的の針葉樹は一向に平氣である。数年のうちに積雪量より以上に生育すれば、彼は自然に肥え太り、目通り二メートル以上のものも稀ではないのは御覧の通りである。

私は植物についての学問的知識はないが、(1)から(6)までの前述の各説が、北地針葉樹そのものの性質にふれていないのに不満がある。私に結論を急がせれば(アオモリトドマツとヒメコマツを仮に同性質として)「私は北方育ちで、

私は近頃にがにがしく思うことは、奥地資源開発に名をかりた林道を表看板とする観光道路である。曰く魅幹林道、曰く峯越林道と、あたかも開発を待つて眼れる資源が無限にあるかの如く宣伝するが、実はその資源の経済価値が工事費程もないという例をよく聞く。しかもその時破壊される自然の絶対価値は絶大であるという場合が多い。そしてその自然破壊行為に費される工事量までが国民総生産の一部を構成しているのかと考えると、從らにG.N.P.の大を誇

日本海沿岸の鳥海山、月山（近年オオシラビソの林が発見され私も見ている）、立山、白山、大山などの火山群と同一系列に入つて、それらの火山群より古い地質の飯豊、朝日連峰にも針葉樹林が見られない。立山や白山に少しはあって、吾妻、日光、山形に比較して

④ 山麓部から季節風によつて森林限界を押し下げられ、亜高山帯にあたる針葉樹林の巾が極度に狭められたという土壤説。

して根張などからてそれ以外の山腹の斜面には絶対にと云つてよいほど生育しているのが見られない。これは何を意味するかといふと、斜面に発芽して生育途上の若木が、積雪のために窒息するからであろうと思う。頂稜部は風当りが強く春寒作用も大きくて水害をする

聞えたことがある。自然保護法の大原則は、人間の手を加えずして、そのままに保存するにありとて確信し、それを希望していた私は、何と大それたことを考えた男か、正氣の沙汰からしらと疑つたものである。

破壊された自然は永々は復元することはできない。又、人がわんさと押し寄せるようになると、今の日本人のモラルを以てしては、山が忽ちにしてゴミ捨て場同然となり、天上の仙境にゴミと悪臭が充満するであろうことは明かである。

いた。それを拝読するに及んで、  
こりや事だ。ちよと今まで、皆  
さんから考へてもらつてから、移  
殖実験は国有林を管理する営林署  
から正しい時間をかけた実験をして  
もらいたい。その意味で登山者  
の単なる好奇心にブレーキして、  
改めて私の考え方述べておく。

(3) 立に關係があるといふ積雪説。本州の森林は地味の豊かな部分が広葉樹に占められ、針葉樹は地味の瘦せた北方へ圧迫されて後退している。山地でも同様で針葉樹は広葉樹の生育に不適地の土壤の薄い岩石の多い急斜面か砂礫地しか占有されない。

コマンの太木は美事である。オオシラビノの代りにこのヒメコマツを観祭してみよう。

# 自然保護と觀光

飯豊に針葉樹林はなぜないか  
藤島玄  
篤さんの請に応じて「バンザイ今西さん」を書いた。ところが、寒な気温より、積雪量の多少や  
②山麓地帯の気象の特徴から  
おすると、積雪が長期間にわたり  
針葉樹林の成育に不適当で、冷  
豊、朝日連峰は海岸線に同距離に並列して屏風を立てたように  
海風を直接受けている。

まま回復できないのではないか。  
そうだとすれば、植林すれば立派に成育し得るという回復説。  
それでは、飯豊連峰に針葉樹林  
が無いとか云うと、私はヒメコマツ  
があるではないかと云いたい。  
見渡す尾根の頂稜線に魚の背のよ

風が強くても、凍つても、地味が  
痩せても、岩だらけでも、寒さに  
は元気に育ちます。けれども、頭  
から雪がどっさり被さると、息が  
ならんで死ぬので御座ります」  
と。

く罷り通るようなものである。  
私は、山は、麓の登山口までの  
交通を便利にするを限度とし、そ  
れから上は歩いて登るを原則とし  
て、登山道は歩道の整備に止め、  
自動車道は一切造らず、聖城とし  
て残してもらいたい。機械力に物



# 長崎国体に 出場して

藤井 井

信

第三〇回岐阜国体から、表彰制度が実力で見学する。用具の研究、技術の交換により、レベルアップが主目的に考えるものである。同時に、大会の空気が堅苦しいムードになつたり、スタンダード、プレーがでたり、登山の本来の姿から逸脱した傾向が現れ、また、一面では、インスペクトの基準、インスペクターの質、技量などの多くの問題点が批判され、山岳競技化の疑問と関心がたかまつた。

これは、国体にどんな形であるが、山岳種目があることから基本固体に山岳部門の種目がある限り、批判を覺悟で、公開種目から競技種目にイスカレートしなければならない背景も考えてみる必要があるのでなかろうか。

長崎国体では、講評資料作成審査基準要綱が定められ、従来通りに、全国の岳人が一堂に集まり、それぞれの知識、技術を交換、更に親睦を深める面に競技的面が加わった。二つの姿勢があつた。二つの姿勢があつた。二つの姿勢があつた。

要綱では一、体力二、歩行技術三、マナー四、チームワーク五、生活技術、六、服装装備七、観察研究の七項目である。特に、長崎国体では、重点項目として、体力、歩行技術に幕営技術がとりあげられた。

重点項目の中より、「スポーツ

の優劣をきめる試みとして、今は相互に実力を認めあうために、そなつた。選手があまりにも意識して、大会の空気が堅苦しいムードになつたり、スタンダード、プレーがでたり、登山の本来の姿から逸脱した傾向が現れ、また、一面では、インスペクトの基準、インスペクターの質、技量などの多くの問題点が批判され、山岳競技化の疑問と関心がたかまつた。

これは、国体にどんな形であるが、山岳種目があることから基本固体に山岳部門の種目がある限り、批判を覺悟で、公開種目から競技種目にイスカレートしなければならない背景も考えてみる必要があるのでなかろうか。

長崎国体では、講評資料作成審査基準要綱が定められ、従来通りに、全国の岳人が一堂に集まり、それぞれの知識、技術を交換、更に親睦を深める面に競技的面が加わった。二つの姿勢があつた。二つの姿勢があつた。二つの姿勢があつた。

要綱では一、体力二、歩行技術三、マナー四、チームワーク五、生活技術、六、服装装備七、観察研究の七項目である。特に、長崎国体では、重点項目として、体力、歩行技術に幕営技術がとりあげられた。

は問題にならない程、極く僅かな

ことである。従つて国体の競技化

ということであまり神経質になら

ざる必要もないと思

う。国体登山の競技化ということ

で、県協会の予選会を同一視して

疑問や批判をもつて協会員

がいたとすれば、思慮浅かな大き

な誤解もと大きな視野から登山

というものをみたいものである。

今回の国体に出場して感じたこ

とは、県協会から、選ばれた場合

誰が登場しようが、新潟県代表

選手の実力は、他県と比較しても

なんら遜色もなく、優るとも劣ら

ず、むしろ総体的には群を抜く力

を持つていると云つても過言では

ない感じた。従つて加盟団体の

規模を誇り、選手選考だけでは

か、また地点名と距離時間等につ

いて、選手・監督に質問形式でチ

エックされた。

が判る位に事前研究をしている

風向、読図に關して、周囲の山名

歩行させる。「また行動中や休憩

にインスペクターから、気象に関

して、観天望氣による天候の推移

から五〇%アップの速度ベースで

歩いて選手・監督に質問形式でチ

エックされた。

が判る位に事前研究をしている

風向、読図に關して、周囲の山名

歩行させる。「また行動中や休憩

にインスペクターから、気象に関

して、観天望氣による天候の推移

から五〇%アップの速度ベースで

らの下山は南に上路部落を通じている。峠から一気に天嶮親不知に達すると、見慣れた日本海の潮風が漂っていた。バスで青海町に着き、市中行進をして役場前に集合する。

閉会式は青海町長代理、体育協会長の祝詞の後、役員の総評、講評によって、今大会の成果、反省事項等詳細な指摘を行い、最後に青海町万才を三唱して解散した。

今回の選手会をふり返ってみて、三日間好天に恵まれ、新しいコースを全員無事に踏破できたのは何よりの成果であった。選考評議は各バー、テー単位で、一応体力、歩行技術、マナー、チームワーク、生活技術、服装、観祭記録（天気図、登山届を含む）紙上試験等によつて採点したが、各バーにより相違がある。一部に体力不足の者もあつたが、要は普段の鍛錬により基本を充分に積んで、どんな場合にも対処できるよう心掛けおくべきである。集団に於ける積極的な交流は充分に発展させることになった。

最終選考会は五月二三日直江津

に於て行い、予選会の在り方、選考法等について種々検討した結果、従来の方式を伝統として更

一般も高校側よりの選考委員の

慎重審議の結果

一般 さわがに山岳会、伊藤良信

高田ハイク、近藤紀郎、柿崎山

岳会、生野武、補欠金子章男

高校、加茂農林高校

大平和司、

開始柿崎町、佐藤教育長の歓迎の

時三〇分柿崎駅前に集合、受付を

始める。

主催は柿崎町教育委員会で主

席は柿崎山岳会が担当し六月八

日午前七時三〇分柿崎駅前に集

合、受付を

開始柿崎町、佐藤教育長の歓迎の

時三〇分柿崎駅前に集合、受付を

始める。

主催は柿崎町教育委員会で主

席は柿崎山岳会が担当し六月八

日午前七時三〇分柿崎駅前に集

合、受付を

始める。

主催は柿崎町教育委員会で主

下越新潟地区

矢筈山岳会

下越、新潟地区は中蒲原郡の名  
山白山で行なうことになった。

宿泊地は滝谷の慈光寺でお世話を

ピオレ、関川の各山岳会がそ

、そく車で集まつてくる。みんな

杉山岳会の上村幹雄さんの引卒す

船栄中学極登山部一三名がテント持参でやってきた（山の気分を

嘆息登山訓練をする為水場まで

少ないため林道にテントを張つ

一九詩貫例二二二前文系

振りに顔を合せたので話しに花

が唄き歌に踊りに時の経つのを忘れて樂しハ一夜を過した。

白山（一〇二米）は仙見守門

新立自然公園の一角落にあたり

れている。尾根へ出るまでの登り

きついので夜めでの人からいはぐれれるが頂上からの眺は抜群で新

、弥彦をはじめ遠く佐渡ヶ島も

増え初心者向の絶好の山であ

六用二田

慈光寺境内で開会式を行なう。

六三名、天氣は上々だ。

三名、天氣は上々だ。

水場を過ぎる頃から疲れを訴える者がでたが、リーダー一人をつけて吾々は先に出発する。袴腰を過ぎる頃からヤマソツチ、タムシバの花が吾々の疲れた体を柔らげてくれる。一二時頂上に到着。各人思い思いに食事をしながら周りの景色を眺める。目の前には今登ってきた慈光寺が、また五泉新津の街が見える。右手には残雪豊かな飯豊山が親分顔をしている。

又川内の山波が吾々の行くのを待っているかのようだ。

一三時三〇分下山、この時途中疲れで遅れた数人が元気よく登つてきた。

一五時一〇分、慈光寺前全員集合一人の事故者も無くみんな元気で頂上を踏めたことを喜こび合つた。

閉会式後すっかり仲良くなつた一行は再会を誓い車中の人となつた。

第一回新潟県山岳遭難救助指導者講習会。

三月七日八日 北魚沼郡場之谷

村ゆのたに在及びその周辺で新潟県、県警、航空自衛隊、日赤、湯之谷村他、の後援で開催 参加者百八十名、参加者全員熱心に研究する。天候悪く期待していたヘリコプターが飛来できなかつたこと

は残念だった。このような講習会は始めての催しなので、なにかと手違い、手落ち、不備、不満があることでしょうが、お互が研究し合い、講習を受けるのではなくして戴するのだという考え方で参加して戴いたら本年度は更に実のある講習会になると思います。

**昭和四十五年度評議員会**

四月一日、岩船郡関川村清流荘で開催、出席者四二名

**四四年度事業報告、会計報告、四五年度事業計画発表、予算案審議、あえて県の北端で交通の便はよくない処で開催したのは終了後親睦会をおこない県内各山岳会の交流、親睦を更に深めたいと考えでした。この主旨を諒承下さ**

い。

**第二五回国体登山県選会**

五月三日～五日（二泊三日）西頸城郡青海町、大ガ岳で開催、参加者一八名。選考委員会で慎重審議の結果次の監督、選手候補が決りました。

一般監督小野健（さわがに山岳会）選手、伊藤良信二五才（さわがに山岳会）近藤紀一郎 三〇才（高田ハイキング）生野武二五才（柿崎山岳会）補欠金子富男二七才（さわがに山岳会）高校監督利照司（加茂農林）選手 大平和司（加茂農林）西沢広（三条商業）補欠渡辺正威（水原高）

**県民スポーツの日登山**

別項の通り各地区にわかつて盛大に楽しく開催されました。

担当各山岳会の骨折に深謝いたしました。

第一七回新潟県登山祭  
七月二五日、中央より講師、成瀬岩雄氏を迎えて弥彦山で開催、参加者一三〇名。  
親睦登山会  
一〇月一七日、一八日、二王子岳で開催、担当下越地区  
昭和四五年度指導員研修会  
一月中旬開催予定、会場未定  
新加盟山岳会紹介  
新潟コンバーチK.K.山岳部  
会員三三名、代表者五十嵐義雄  
新潟市臨港町二、社員クラブ内  
電話七三一四七四〇  
三条岩峰山岳会  
会員四九名、代表者近藤吉昭  
三条市横町、石川方  
電話二一一〇一九  
五泉山の会  
会員三八名、代表者樋口昭  
五泉市東本町一、樋口方  
電話二一二五〇九  
名称変更、くちなしの会が新潟山岳会に変更になりました。  
分担金納入のお願い  
現在新山協の財布はまことに緊迫しております。後半の運営は四五年度協会加盟団体の未納分担金を至急納めて戴かねば至難になってしまいます。出費多端の折恐縮ですが、新潟市営所通り一、学生書房方新潟県山岳協会事務局宛お送り下さるようお願いいたします。

急報 第二五回岩手国体に出場した一般、監督小野健以下三名は、総合で第一位という輝かしい戦果を納めました。小野監督の優れた才能と新山協諸先輩の指導が報いられたものと思ひます。尚昨年の長崎国体でも藤井監督以下三名も一位でした為念。

秋期懇親登山無事終る  
今年の会場は二王子岳に一〇月一七、一八日の両日。下越地区担当で行なわれた。遠くは佐渡、柿崎、十日町からなじみの人達がぞくぞく集り七九名が盛大に懇親会をおこなう。翌朝二王子岳へと登りました。  
御協力深謝いたします。

編集後記  
九月中旬頃からハッキリしなかつた親父が未頃からバッタリ、看病、入院、死亡、あとかたづけ等で会報発行が異常に遅れたことを深くお詫びいたします。

昭和四五年一月九日印刷  
発行所 新潟県山岳協会  
編集者 室賀 輝男  
印刷所 新発田市  
土田印刷所